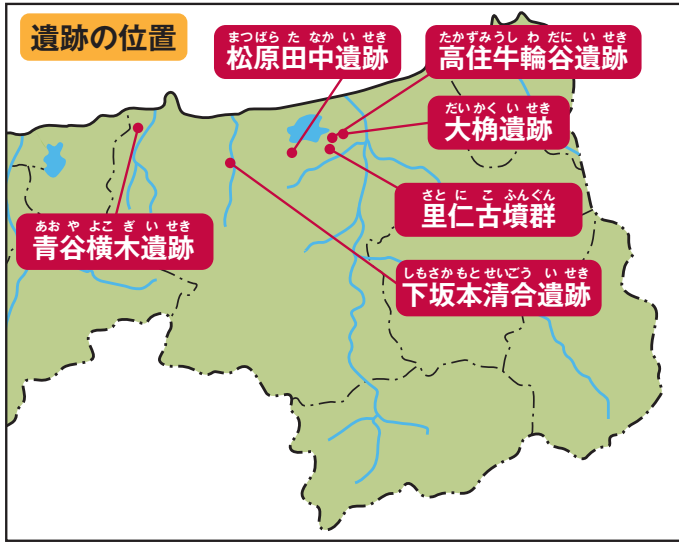


注目

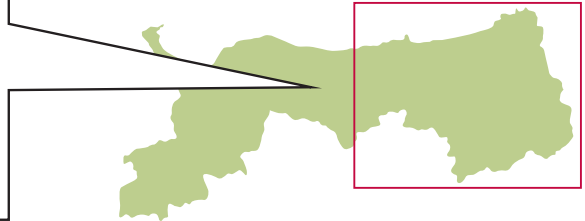
発掘調査情報



平成27年度に鳥取県内で実施された発掘調査では、数多くの成果がありました。今回はその中から特に注目される6つの遺跡をご紹介します。



平成27年度の
発掘調査成果を
紹介



発掘調査で古代「山陰道」が確認されたのは、鳥取県内で6例目だよ！



▲青谷横木遺跡と推定古代山陰道

青谷横木遺跡

古代「山陰道」と考えられる 道路遺構

どうろいこう

7世紀末から8世紀初頭に造られた道路遺構。山裾に沿って造られていて、道幅は6~7mもあります。石と粘土による強固な盛土で造られ、その高さは最大約1.4mにもなります。こうした規模や構造などから、古代の駅路のひとつ「山陰道」と考えられます。

Close Up!

えきろって？ 駅路って？

律令国家が都と地方（国府）との情報伝達のために整備した大規模な道路のこと。現在の高速道路にあたり、古代「山陰道」は全国に張り巡らせた七道駅路の一つです。青谷横木遺跡周辺には馬を乗り継ぐための駅家である「柏尾駅」（もしくは「相屋駅」）が置かれていたといわれています。

【調査主体・問合せ】

鳥取県埋蔵文化財センター 電話0857-27-6711



見つかった銭貨の数は
1万枚以上と推定でき、
県内最多は確実だよ！



下坂本清合遺跡

中国からの輸入銭 埋蔵銭

まいぞうせん

山の急斜面に埋められていた備前焼の壺の中に大量に詰められた銭貨（銅銭）を発見。埋められた時期は、備前焼の壺の特徴から16世紀前半頃（室町時代）と考えられます。見つかった銭貨は中国から輸入したもので、通貨として流通していました。大量の銭貨を埋めた目的としては、将来に備え貯める（備蓄）、または土地の神に供えるといった呪術的な解釈などがあります。

Close Up!

中国からの輸入銭（渡来銭）

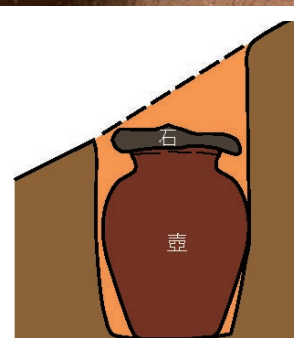
奈良時代から平安時代前半頃までは、国内で銭貨を鑄造していましたが（皇朝十二銭）、流通範囲は近畿地方に偏っており、衰退していきました。その後、平安時代末期から鎌倉時代になると、中国の銭貨が国内に流通しはじめ、通貨として使用されるようになりました。

【調査主体・問合せ】
鳥取県埋蔵文化財センター
電話0857-27-6711



埋蔵銭出土状況▶
銭貨はバラの状態が入っていました。

◀出土状況模式図
容器の蓋には平らな石を使用していたと考えられます。



大桷遺跡

全国でも出土例が少ない遺物 平安時代の絵馬

へいあんじだいのえま

平安時代の川の岸辺から出土した木製の絵馬。この川では、木製の人形や馬形、ウシやウマの骨が齋串（神に供える木製品）とともに見つかり、祭祀が行われていたと考えられます。平安時代の絵馬の出土例は全国的にも少なく、県内では初めての出土です。手綱が表現されるなど写実的に表現されています。

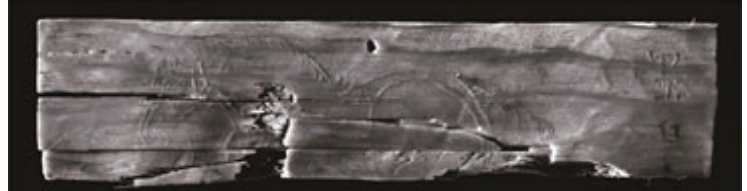
【調査主体・問合せ】
公益財団法人鳥取県教育文化財団
電話0857-51-7553



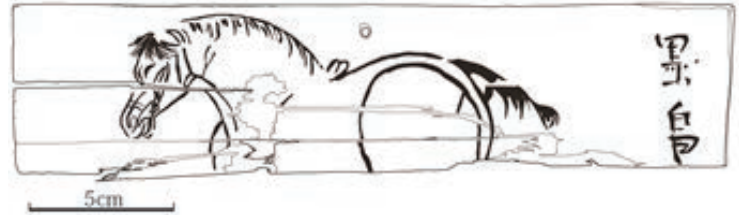
絵馬の右側には、墨で書かれた文字も確認できるよ！



▲斜光撮影写真



▲赤外線撮影写真



▲実測図

※絵馬の写真は奈良文化財研究所撮影
※文字については今後詳細に検討予定

団扇形木製品の複製品▶

半月状の部分にスリットがあり、ここに羽根や獣毛などはさんで固定してたと考えられます。



◀団扇形木製品の出土状況

高住牛輪谷遺跡

古墳時代の権威の象徴

団扇形木製品

うちわがたもくせいひん

古墳時代後期の木製の祭祀具（刀形）が多量に見つかった溝から出土しました。鳥取県初の出土で、全長は約40cmです。半円形の先端部分に切れ込みがあり、そこに羽毛や獣毛をはさんで、団扇状にしていたと考えられます。権力者の持ち物で、儀礼や祭祀に使われていたと考えられています。

【調査主体・問合せ】

公益財団法人鳥取県教育文化財団 電話0857-51-7553

地中梁を伴う布掘建物跡▼



◀重圏文鏡



松原田中遺跡

約1700年前の国産青銅鏡

重圏文鏡

じゅうけんもんきょう

同心円が二重に廻ることから、「重圏文鏡」と呼ばれます。古墳時代前期（約1700年前）の国産の青銅鏡と考えられ、直径5.3cmと小型のものです。地中梁を伴う布掘建物の付近から出土しました。

【調査主体・問合せ】

公益財団法人鳥取県教育文化財団 電話0857-51-7553

そのほかの出土遺物▶

遺跡からは、ガラス勾玉（左、弥生時代）や、銅剣を模した石の剣（右、同）など多数の遺物が出土しました。



▲墳丘における貼石の状況

里仁古墳群

埋葬施設が重複する独特の埋葬配置

里仁1号墓

さとにいちごうぼ

丘陵上に立地する弥生時代後期の墳丘墓。長辺21mの方形で貼石があり、墳丘平坦部には40基あまりの埋葬施設がありました。埋葬施設は複雑に重複し合う類例の少ない埋葬配置でした。埋葬施設上には供献土器や標石が目立ち、碧玉製管玉3点と鉄鏃片が出土しています。

【調査主体・問合せ】

公益財団法人鳥取市文化財団鳥取市埋蔵文化財センター 電話0857-22-0366

平成28年度も鳥取県内では多くの発掘調査が実施される予定です。発掘成果にご期待ください！

